

野田九条通信

2013年12月 96号

「野田・九条の会」事務局

Tel 7122-0502

野田九条の会ホームページ

<http://www17.ocn.ne.jp/~art.9/>

秘密保護法こんな悪法必ず廃案へ！



11月21日、日比谷での反対集会に
野田からも15人が参加して廃案を訴えた

秘密保護法は4つの分野（外交、防衛、スパイ活動、テロリズムの防止）ほかの情報を「特定秘密」として国民の目から隠そうとしています。「特定秘密」指定するのは、行政機関の長とされており、必要と認めれば指定できます。これでは政府が隠したいと考える情報は全てが「特定秘密」とされてしまいます。特定秘密とされた情報を取り扱う人は、漏えいしたら最高で10年の重罰です。

秘密を知った公務員や労働者の内部告発は、既遂も未遂も処罰です。これらの人に対し、秘密を知ろうとして「脅迫、窃取、不正アクセス」など秘密保有者の「管理を害する行為」をすれば、最高懲役10年。秘密を漏らすように「共謀」「教唆」（そそのかす）「扇動」（あおる）すれば懲役3～5年です。「管理を害する行為」の解釈は幅広く、秘密公表を求めるジャーナリストや市民の粘り強い働きかけが処罰される恐れがあります。秘密を知る人の漏洩だけでなく、一般市民が秘密を知ろうとする行為も処罰対象にする法案なのです。

日本政府はことあるごとに、アメリカから秘密保護法を作るよう強要されてきました。2005年の日米安保協議委員会でも共有された秘密情報を保護するために必要な追加措置をとることを確認させら



11月23日、愛宕駅頭で法案反対を訴える

今月の予定

12月4日（水） 1時～3時

「憲法を読むⅡ」 野田九条事務局田中宅
けやき九条の会

12月8日（日） 2時～4時半

「戦争体験者の話を聞く会」 南部梅郷公民館
南地域九条の会

12月9日（月） 3時～4時

「9の日ボードでアピール」 運河駅集合
野田九条の会

12月14日（土） 2時～4時

野田・九条の会定例会 中央公民館講座室

1月19日（日） 1時半～

映画「はだしのゲン」上映 南部梅郷公民館
南地域九条の会

れています。さらに2007年8月に「秘密軍事情報の保護のための秘密保持の措置に関する協定」を締結させられています。秘密保護法案は、アメリカが日本を戦争に参加させるために再三再四求めているもののなのです。そもそも国民は、この国の主権者であって、政府が国民のための政治を行っているかどうかを監視し、コントロールするというのが憲法の原理原則です。重要情報に接することができなければ正しい判断ができず、情報提供者（政府）の意のままに判断させられてしまいます。最新の世論調査では、法案に反対が過半数です。秘密保護法案を廃案にするために、さらに反対の声を地域から強めていきましょう。

秘密保護法の脅しによる目隠し政策、教科書の国家統制強化や道徳教育の教科教化などが矢継ぎ早におしすすめられています。釘づけされてしまった平和を望んだ人々の思いに静かに向きあい、再び封印させない道を探していきたいと思います。

「野田の絵馬」展に見る平和の願い 須賀田省一

野田市内の絵馬を集めた特別展が野田市郷土博物館で開かれています。

市内の神社や寺には一六〇〇点あまりの絵馬や奉納額が遺されています。それらはおおくの人たちが古来より神仏を通して自分たちの願いごとを託したあかしの貴重な資料です。

歴史の記憶は古文書から読み解かれています。それらから庶民の思いが見つけだされることは稀なことです。しかし絵馬からは、歴史にとどめられず消えた「庶民の声」を聴きとることが出来ます。そのなかに、平和へのメッセージがあります。

明治期に日清・日露戦争を経て日本が富国強兵に突き進んだ近代天皇制政治の重圧の中で、庶民が平和を望み、戦争で死にたくはないと願った思いが伝わってきます。

そのころ庶民がすべて「ばんざい、ばんざい」ではなかったと絵馬が教えてくれます。

その中の、堤台延命地藏尊の事例を紹介します。同所に

は市内で最高の四〇〇点近い絵馬や奉納額が残されています。家族、夫婦、親子、男一人、女一人、あるいは複数の拝み絵。それらには家内安全、病氣平癒、子供の成長などの願いがあつたかもしれませんが、書き込みは「大願成就」「心願成就」となっていて祈願の本身は直截に確認できません。

これらの絵馬が大量に残されたのは日露戦争のころからです。

もちろん「明治天皇」「東郷大将」「旅順戦闘」「日露記念」「鉄砲兵図」などの印刷や写真のものも幾点ありますが、絵馬のほとんどは「大願成就」でした。

旅行作家大町桂月は日露戦争のさなかの明治三八年に野田を訪れ、愛宕神社の勝軍地藏をほめ、堤台の延命地藏尊を徴兵除けの「不屈千万」のものとして書きました。

明治四三年に大逆事件があり、明治四五年五月、野田でも

小さな事件がおこりました。

野田警察署が延命地藏尊の「堂宇を釘付けとして封鎖した」のです。これを、徴兵除けで「風紀を紊すおもんばかりの虞れあり」としたためと読賣新聞が報道しています。

絵馬は古臭いものというイメージがあるかもしれませんが、そんなことはない。いつの世も庶民は戦争で死にたくないと思つていたといふあかしを、絵馬に残しているのです。

わたしはこの絵馬の調査に少しばかり関わりました。ふだん市民が目にするものなかった庶民の遺産とめぐりあう経験をしました。

いま、平和憲法の九条を目の敵としている明治の亡霊の末裔の「積極的軍国主義者」が権力を握って、日本の行く末をあやうくしようとしています。

絵馬は反戦を標榜していません。しかし、絵馬を奉納した先人たちの願いは、九条を守りたいと思う私たちの気持ちと同じだと思えます。ぜひ庶民の絵馬をご覧ください。歴史の教訓とされまことをおすすめします。

絵馬展は一月末まで開かれています。入場無料です。



会期 平成25年11月2日(土) ~ 平成26年1月31日(金)
会場 野田市郷土博物館 1階展示室
開館時間 午前9時~午後5時
休館 火曜日・年末年始休館 (12月29日~1月3日)